

公益社団法人 日本ビリヤード協会 御中

## 質 問 状

神奈川県ビリヤード協会  
安藤 敏浩

### 【神奈川県ビリヤード協会における事実認識】

神奈川県ビリヤード協会は、公益社団法人日本ビリヤード協会（NBA）の地域別加盟団体であり、NBA 神奈川支部として活動している。

神奈川県ビリヤード協会は、東京近郊以外の関東圏のビリヤード事情、特にキャロム競技が絶滅寸前にまで追い込まれていることを憂慮し、対策を協議した結果、NBA 関東支部が主催する全関東段位戦やエキサイト戦の県予選を開催し、これら大会の決勝出場権を付与することができないか、という提案を2013年8月にNBA 関東支部（関東キャロム会議）に行った。NBA 関東支部（関東キャロム会議）との協議の結果、2013年9月に、神奈川県予選からのシード枠およびダブルエントリー（神奈川県予選とそれぞれの本戦への二重参加）が認められた。

これを受けて神奈川県ビリヤード協会は、2014年1月から全関東段位戦（初段～4段）の神奈川県予選をそれぞれスタートさせた。これ以降、2018年まで、春と秋の年2回、各段位戦の神奈川県予選を開催してきた。神奈川県予選を経て全関東段位戦に出場した選手の数は、初段8名、2段8名、3段6名、4段8名であった。

全関東段位戦の神奈川県予選については、「神奈川だけ（全関東段位戦に）シード枠があるのはずるい」などの苦情が関東キャロム会議（の吉川氏）に寄せられていた。これについては、神奈川県と類似の地理的条件にある埼玉県および千葉県においても同様の地方予選を実施できる体制を整えるよう、神奈川県ビリヤード協会から両県のビリヤード協会に依頼してきたが、現状では両県で予選を行える状態にないとのことで、実施には至っていない。ただし、NBA 関東支部が定める「関東地区キャロム系大会の細則について」には、附則として関東各県で段位戦予選を開催する際の取り決めが記載されている。

以上と並行して、2017年6月に、神奈川県ビリヤード協会からNBA 関東支部（関東キャロム会議）に全関東段位戦の県代表制の制度化を提案したが、NBA 関東支部（関東キャロム会議）により却下された。この代替案として、NBA 関東支部（関東キャロム会議）より、全関東エキサイト3C戦A級とB級に県代表制を取り入れる提案がなされた。神奈川県ビリヤード協会はこの提案を了承し、2018年4月の全関東エキサイト3C・B級戦予選、7月の同A級戦予選を実施した。

全関東エキサイト 3C 戦では、決勝トーナメントの第 1 回戦で神奈川県代表同士が対戦する組み合わせとなるなど、神奈川県支部にクレームが入っている。また、2018 年 7 月 25 日には、関東キャロム会議の山中議長より、「エキサイトについての質問と要望」が神奈川県ビリヤード協会に寄せられたことをきっかけに、同年 10 月までに双方でやり取りをした結果、神奈川県ビリヤード協会と関東キャロム会議との間で、エキサイト 3C 戦に関する認識に大きな違いがあることが明らかとなった。

双方の認識は 3 通の別添書類（1. 回答書.pdf、2. 質問状.pdf、3. 意見書.pdf）に示すが、要約すれば以下の通りである。

#### NBA 関東支部（関東キャロム会議）の認識

- エキサイト 3C 戦に設けられた地方枠は、地方からの要望に基づいたものであるから、そこに各県からの代表を出す義務がある。しかし現状では神奈川県からの参加がなく、地方からの要望にも関わらず他からの代表出場がないことは理解に苦しむ。

#### 神奈川県ビリヤード協会の認識

- エキサイト 3C 戦の地方枠は、あくまで権利であって、その行使（代表選出）の義務を負うものではない。
- エキサイト 3C 戦に地方枠があることは、各地域の予選を実施する誘因となるから、キャロム競技が衰退していく中であって、地域の活性化につながる材料の 1 つである。このような枠を確保しておくことと、実際に地方枠に基づいて代表を選出するか否かとは別問題である。
- 先述のように、エキサイト 3C 戦の地方枠は、全関東段位戦の各県代表枠を求めたことに対する代替案であって、本来の要望とは異なることにも留意が必要である。

上記 3 通の書状に対して、NBA 関東支部は、関東キャロム会議議長名で 2018 年 10 月 3 日付書状を神奈川県ビリヤード協会理事長宛に送付した。この書状では、神奈川県ビリヤード協会と NBA 関東支部（関東キャロム会議）との間で何の協議もないまま、全関東段位戦と全関東エキサイト 3C 戦におけるダブルエントリー制および神奈川県予選からのシード枠を撤廃する旨、一方的に通告された。

NBA 関東支部（関東キャロム会議）による上記通告を受けて、神奈川県ビリヤード協会は、NBA 事務局に確認した結果、神奈川県独自で段位戦を実施できるとの返答を受けたため、2018 年 12 月、神奈川県ビリヤード協会の臨時総会において、2019 年から神奈川県大会段位戦（初段～4 段）実施を決定した。併せて、全関東段位戦のシード権返上を NBA 関東支部（関東キャロム会議）に書面で通告した。なお、神奈川県独自で段位戦を実施する案は、前

関東キャロム会議議長山中氏、吉川氏、本田氏より前述した吉川氏への苦情軽減の策として神奈川県協会事務局に対しエキサイト3C戦（県代表有）の打合せの際にでていた。

2019年1月に神奈川県大会段位戦のポスターを作成し、NBA加盟店に送付するとともに、神奈川県版キャロム細則を整備した。同年3月以降、神奈川県大会段位戦（初段～4段）を春と秋のそれぞれ2回ずつ開催し、参加者は、初段戦（春10名、秋9名）、2段戦（春8名、秋10名）、3段戦（春4名、秋7名）、4段戦（春10名、秋9名）であった。

2020年も前年同様のスケジュールを予定していたが、2月16日に神奈川県大会初段戦を開催（参加7名）した後、新型コロナウイルス蔓延防止のために、以降の大会は中止ないしは開催が未定となっている。

この間、2019年秋開催の神奈川県大会2段戦で優勝し、3段となった選手が、神奈川県で取得した段位では全関東3段戦のエントリーが認められないという事態が発生している。これについては、関東キャロム会議において、神奈川県で取得した段位を認めない方向で協議が進められているとの情報があったため、事前にNBA専務理事と対策を協議し、「3段戦までは神奈川で取得した段位に基づいて全関東段位戦への出場を認める」という回答を得ていたところである。

このことに対して、関東キャロム会議議長より神奈川県ビリヤード協会事務局に対して電話による説明があった。要約すれば、

- 神奈川で取得した段位が関東支部で取得した段位と同じものであると考えていた人たちの救済措置として、一度だけは同じ段位で関東支部の大会出場を認める。
- 今後は関東支部で取得した段位に基づいて大会出場を認める。
- 神奈川県ビリヤード協会が上記提案を承認しない場合は、救済措置はなく、神奈川で取得した段位を認めない。
- NBAはきちんとした段位認定制度を持っておらず、支部からの段位認定申請があればそのまま認めている。
- そのため、神奈川は（全関東と比較して）出場者が少ないためレベルが低く、そこで取得しNBAが認めたものであっても、関東支部と共通の段位として認めることはできない。

というものであった。

### 【上記事実認識における問題点】

次項にまとめた組織に関する問題点とも密接に関連するが、神奈川県ビリヤード協会として、上記の事実認識における問題点を次のように考える。

### 段位認定に関すること

日本におけるキャロム競技の段位認定は、各段位戦などによって規定の成績をクリアした選手が該当する段位認定の申請資格を得て、規定の認定料を納めることによって NBA が段位を認定する。段位認定に関わる NBA の段級位表には、地域を区分する決まりはないため、NBA が認定する段位は全国共通のものである。

神奈川県大会段位戦で段位認定に関わる申請資格を得た出場者は、上記の手続きに従って NBA の段位認定を受けている。一方で、全関東大会では、該当する NBA の段位認定を受けていない出場者もある。段位未取得者は、全関東大会で申請資格を得たものの、その権利を行使しないことが主な理由であると認識するが、NBA の段位取得者が参加を拒否され、未取得者の参加を認める全関東大会の参加基準は、合理的な説明を欠いている。このような事態が今後も容認され続ければ、NBA が認定する段位の形骸化につながることになるだろう。また、参加可否を決定する主体に関しても問題があると考え、これについては後述する。

### 地域間の「レベル」(水準) 差に関すること

事実認識の節で触れたように、関東キャロム会議議長は、「神奈川県で取得した段位の水準は、全関東の同じ段位の水準より劣る」という発言をしている。関東キャロム会議議長は、「神奈川県大会は、出場者数が少ないので、(神奈川県大会より出場者が多い全関東大会と比較して) レベルが低い」ことをその理由として挙げている。現に出場資格のある選手の参加を断る以上、単に、参加可否を決定する主体 (NBA 関東支部あるいは関東キャロム会議ないしは一部の関係者個人) の感覚や経験といったあいまいな基準ではなく、合理的な基準によって判断が行われていると考えるが、一般論として、スポーツや技能の競技会において、出場者数の多寡が、競技会そのものあるいは上位入賞者の技術・技能レベルを測る指標になるとは考えがたい。したがって、参加人数の多寡によってレベル差が生じることのメカニズムを、誰もが首肯する形で示してほしい。

### **【NBA 関東支部と関東キャロム会議に関連する問題点】**

NBA の加盟団体については、NBA 定款第 41 条において、NBA の目的に賛同して全国各ブロックを統括する地域別加盟団体と、NBA の目的に賛同する特定の種目や目的等に特化した全国的な組織をもつ種目別加盟団体の 2 種類が規定されている。神奈川県ビリヤード協会および NBA 関東支部は、NBA に承認された地域別加盟団体であり、定款第 41 条に規定された加盟団体規程の細則にも明記されている。一方、関東キャロム会議は、NBA の定款に照らした場合、加盟団体として承認されておらず、また、法人格も持たないことから、NBA の賛助会員としての資格を有しない任意団体である。

神奈川県ビリヤード協会は、全関東大会等への出場選考基準や、段位認定に関することは、NBA の基準に基づき、NBA 関東支部が意思決定し、同支部名で通知すべきであると考えている。しかしながら、これまでのやり取りにおいては、任意団体である関東キャロム会議によって意思決定がされ、かつ、同会議議長名で神奈川県ビリヤード協会に通知されている。さらに、NBA が管轄する全国統一の認定段位を踏まえない恣意的な判断によって全関東段位戦への出場可否を判定するなど、NBA の目的であるビリヤードの普及と振興に反する行為が行われてきたといえる。

すなわち、NBA の地域別加盟団体として承認されているにもかかわらず、NBA 関東支部の実態はなく、その運営や意思決定は、関東キャロム会議という任意組織によってなされていると判断する。

#### 【NBA に対する質問】

以上見てきたように、関東キャロム会議による恣意的な判断によって、神奈川県大会を通じて段位を取得した選手が不利益を被っていることや、神奈川県大会の実施に支障をきたしていることに鑑みて、神奈川県ビリヤード協会は、以下の各点の説明を NBA に求める。

- (1) NBA 関東支部の実態と関東キャロム会議に対する認識について。特に、他の加盟団体と比較した場合に、その運営方法は特異でないかについて。
- (2) 関東キャロム会議議長名で神奈川県ビリヤード協会に通知された内容の有効性について。
- (3) 加盟団体規程第 5 条(3)に基づいて NBA 関東支部から提出されている、事業計画書、事業報告書、収支予算書、収支決算書、役員名簿、総会議事録の過去 7 カ年分の開示。
- (4) (3) の開示ができない場合は、その理由と、各種書類の提出の有無について。
- (5) 【上記事実認識における問題点】にまとめた 2 つの点、すなわち、「段位認定に関すること」および「地域間の「レベル」(水準) 差に関すること」に対する NBA の認識および対応について。

なお、特に上記 (2) については、内閣府が定める「公益認定等に関する運用について(公益認定等ガイドライン)」において、「出場者の選定や競技会の運営について公正なルールを定め、公表しているか」が、スポーツなどの競技会が公益目的であるかどうかのチェックポイントとして掲げられていることを踏まえて回答いただきたい。

以上